

夏の特集 各波おすすめ番組



総合テレビ

長崎 被爆からの復興

8月3日(土) 後4:00~4:50

「今後数十年は草木も生えない」と言われた被爆直後の長崎。しかしそこには、自分の街は自分で復興するという、市民たちの気概があふれていた。それを支えたのは、原爆投下の翌年に設立された「大長崎建設株式会社」。復興を担うはずの県や市が進駐軍の対応に追われ復興が始まらない中、市民が立ち上がったのだ。夜景を臨む稲佐山ロープウェイを建設したり、地場産業の水産業を盛り立てる魚市場を再開させたりと、今の長崎を支える観光や水産の礎を築いた。また、長崎の復興は、被爆者支援の実現を抜きには語れない。被爆者の暮らしを支える体制作りや法整備、原爆病院の設立に奔走した市民の動きも描き出す。

焦土から力強く立ち上がった長崎の人々の復興の物語。

NHKスペシャル「緒方貞子ものがたり」

8月17日(土) 後9:00~10:30

“小さな巨人”と称えられ、その類いまれなる行動力と決断力が、今も世界の尊敬を集める、一人の日本人女性がいる。

緒方貞子さん、85歳。1991年から10年に渡って国連の難民救済機関UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）のトップを務め、“戦争が生み出した弱者”である難民を救うため、世界を駆け回った。

その大胆かつ勇気ある行動と決断には、これまで明かされることのなかった、緒方さん自身の、幼少期からの戦争を巡る経験や、人生の節目節目での意外な人々との出会いが、大きく影響していた。

緒方さんの知られざる人生の物語を、ハリウッドなどで撮影を敢行したドラマと、御本人に密着を続けた貴重なドキュメンタリー映像を織り交ぜながら、1時間半にわたり、壮大なスケールで描いていく。

8・6 関連番組 ドキュメンタリードラマ 基町アパート

8月24日(土) 後11:00~前0:15



広島市中心部にある基町高層アパート。戦後、原爆で焼け出された人々のために建てられた市営アパートには、現在も全20棟、3600戸がひしめきあっている。戦後68年、今も基町アパートに暮らす人々の証言を軸に、戦後をたくましく生き抜いてきた人々の実像に迫るドキュメンタリードラマ。

物語は、戦争のことも、広島のことほとんど知らずに、東京から基町アパートにやってきた小学4年生・龍太の目線で描かれる。母親の仕事の都合で、ひと夏を、祖父のいる基町アパートで暮らすことになった龍太。龍太はその真っ白な心で、被爆体験をしまい込んだ老女や、中国残留孤児の祖父がたどってきた人生に直面する。一方、戦争でつらい体験をした人々も、龍太との交流の中で、少しずつ心を開き、新たな一歩を踏み出していく。クラスメートになった中国人の女の子・鈴鈴との淡い恋物語などもあり、龍太は、基町アパートで

のひと夏を通じて、一回り大人へと成長していく。

【作】江良 至 【音楽】世武裕子

【出演者】加部亜門（子役）、石雋、日色ともゑ、中村梅雀、石橋蓮司、田中美里 ほか

カラフル！ スペシャル**オムニバスドキュメンタリー「100枚のひみつ地図」****8月5日（月）前9：00～9：45**

子どもが自分の言葉で語るドキュメンタリー「カラフル！」（2009年からEテレで放送中）の夏休みスペシャル。子どもたちが描いた地図を入り口にその日常や心のかたちを描く、オムニバスドキュメンタリー。

子どもたちは成長とともに行動範囲を広げ、自らの世界を広げていく。居心地のいい場所や大切な場所を見つけ、“居場所”として獲得することで自己を確立し、他者との関係を築き、“生きる力”を身につけていく。

番組では、「大切な居場所は“学童”という子ども」「外国にルーツをもつ子ども」「津波の被害を受けた被災地の子ども」などを中心に、子どもたちが描いた個性豊かな地図を紹介。子ども自身の言葉で、描いた場所について語ってもらう。それぞれのライフスタイルや思いがあふれる“ひみつ地図”を「カラフル！」サイト内の特設ページと連動させて紹介し、地図から見える「子どもたちの今」を伝える。

先人たちの底力 知恵泉 夏の熱～いスペシャル！**城が導いた天下統一 ～戦国の覇者・信長の知恵を呑む～****8月27日（火）後11：00～11：55**

日本に一軒しかない居酒屋「知恵泉」。その店を舞台に、歴史上の人物の様々な知恵を、現代の一流の仕事人が読み解くという全く新しいスタイルの歴史番組としてスタートした「先人たちの底力 知恵泉」。

今回は、そのスペシャル番組。日本史上屈指のカリスマ・織田信長が築いた「城」を丹念に見ることで、信長の様々な知恵をたっぷり堪能する。

近年、信長が築いた城の発掘調査が進んでいる。初めて築城した「小牧山城」、天下布武へ歩んだ「岐阜城」、新時代の構想を描いた「安土城」だ。それらの城には、信長ならではの築城方法、城を駆使した外交術、権威の演出などが込められ、そこから新発想を生み出す知恵、人心掌握のノウハウ、人材活用の秘策など、今を生き抜くためのエッセンスが導き出せる。

また、これまで「斬新な発想を生み出す天才」といったイメージが強かった信長。しかし、城づくりから「事前準備を怠らない、緻密で用心深い人柄」という、新たな一面も浮かび上がってきている。最新の発掘成果や、城のCG、また一流の仕事人の含蓄あるトークを存分に紹介、熱い夏に負けない活力を提供する。

日本兵になったアメリカ人 ～祖国と戦った兵士たち～（前編・後編）

8月15日（木）・16日（金）後10:00～10:50



今から70年前の昭和18年、神宮外苑で行われた学徒出陣の出征式。その中に少なくない数の「アメリカ人」がいた。戦前留学などのために来日したが、日米開戦によって帰国出来なかった日系アメリカ人である。日本兵として太平洋戦争を戦った彼らの多くは、戦後、米国籍を剥奪されて日本に取り残されたり、アメリカに戻っても国家反逆罪に問われたり、2つの祖国のはざまに過酷な運命をたどった。アメリカに忠誠を示すため、今度はアメリカ軍の一員となって朝鮮戦争に赴く者もいた。

戦前・戦中を取り上げる「前編」では、日米関係が悪化するなか、国策として日系アメリカ人に大学教育を受けさせ、軍の諜報活動に利用しようとした日本政府の知られざる思惑を、いまも存命の日系アメリカ人兵士の証言をもとにあぶり出す。「後編」では、戦後彼らがいかに困難な生き方を強いられたのか、元兵士たちの人生をたどりながら描いていく。国家と戦争に翻弄され続けた長い旅路の物語である。

伝説の名勝負 栄光の銅メダル ～日本男子サッカーはここから始まった～

8月24日（土）後1:00～3:50



日本人の心に今も強烈に生き続け、“日本男子サッカーの原点”とも言われる勝負がある。

1968年10月24日メキシコ五輪サッカー3位決定戦「日本×メキシコ」、日本が2-0で勝利し銅メダルに輝いた試合だ。

日本サッカー界に金字塔を打ち立てたこの試合、実は、国内ではフルタイムで放送されることはなかった。NHKは今年、すでに失われ“幻”とされてきたこの歴史的試合映像をメキシコで発掘。45年の時を経て、日本で初めてフルタイムの試合が放送されることになった。伝説がついによみがえる。

攻撃の中心はストライカー釜本邦茂と、“20万ドルの左足”で世界に知られる杉山隆一。3位決定戦では2人の世界トップレベルのプレーがメキシコから2点を奪い取る。2000mを超える高地での試合は日本にとって大きなハンデだった。さらに8万人を超える大観衆の大半がメキシコ人というアウェーだった。

Jリーグ発足から20周年。日本は2014年W杯出場権を世界に先駆けてつかみ取った。国内のサッカーへの関心は日増しに高まっている。

番組では、今年9月の2020年五輪開催地決定を前に、釜本氏と元メキシコ代表選手の2人が自らのプレーを徹底分析しながら観戦。さらに、両国がどのように試合に挑み、あの勝利が日本に何をもたらしたのか、元選手たちの証言や秘話をもドキュメント。“原点”と言われる激闘の全貌を明らかにしていく。

【試合解説者】 釜本邦茂×元メキシコ代表選手

【試合進行】 山本浩 元NHKアナウンサー

クイズ面白ゼミナールR（リターンズ）

7月20日（土）、8月17日（土）後8：00～9：00

テレビ60周年の2013年、夏のスペシャル番組として「クイズ面白ゼミナール」が復活する。

「知るは楽しみなりと申しまして、知識をたくさん持つことは人生を楽しくしてくれるものでございます…」。「クイズ面白ゼミナール」は1981～88年、日曜日の夜に放送していたクイズ番組。鈴木健二アナウンサー（当時）が教授となって番組を進行、わかりやすい語り口で教科書・歴史・そして社会のさまざまな事象をクイズ形式で解き明かしていく内容が人気を呼んで、最高視聴率は40%を超えた。

今回、いまだ健在である鈴木健二氏がメイン司会として再登場、NHKアナウンサーが「見習い教授」として進行をアシスト。かつての番組をご覧になった視聴者層には懐かしく、同時に若い視聴者には新鮮に、現代の事象をゼミナール形式で切っていく「おもしろくて ためになる」王道クイズ番組とする。

テーマ：1回目 日本人とスマホ、2回目 日本人と氷

【出演者】

司会：鈴木健二 徳永圭一アナウンサー

零戦 ～搭乗員たちが見つめた太平洋戦争～

8月3日（土）、10日（土）後9：00～10：30

太平洋戦争直前の昭和15年に完成し、戦争を通して最前線に立ち続けた零戦。圧倒的な格闘性能と航続距離を武器に、真珠湾攻撃を成功させ太平洋の島々を制空権下におさめながらも、やがてアメリカの新鋭機との戦いに敗れ、最後は爆弾を抱えて敵艦に体当たりする「特攻」の先駆けとなっていく。こうした零戦の姿は、当時の日本の栄光と悲劇の象徴でもある。

零戦はなぜ悲劇的な運命を迎えたのか。そして渦中に置かれた搭乗員たちはその現実とどのように向き合ったのか。番組では、今は僅かになった元零戦搭乗員の証言をくまなく記録。また、最初の特攻隊員として戦死した搭乗員・大黒繁男とその家族の物語をドラマで描く。さらに、零戦を作り上げた天才設計者、堀越二郎の苦悩と葛藤に迫るとともに、超精細CGで零戦と米軍機の死闘の様子を再現するなど、零戦をあらゆる角度から描き、悲劇の全体像に迫る。

番組では、若手実力派俳優の染谷将太さん（20歳）をナビゲーターとして起用。染谷さんの祖父もまた、予科練を出て特攻隊員となり、終戦を迎えている。「搭乗員の墓場」と呼ばれたラバウルなど零戦ゆかりの場所を訪ね、日本各地で元搭乗員やご遺族の話を聞くことで、零戦に関わった人びとの心の軌跡をたどっていく。

【出演者】

- 番組ナビゲーター：染谷将太
- ドラマ出演者：奥田瑛二、小林ユウキチ、松本花奈 ほか
- 朗読ドキュメント出演者：古舘寛治 ほか

ラジオ

ラジオ第1

原爆の日 ラジオ特集（ドキュメンタリードラマ）

今こそ伝えたい被爆の苦しみ～被爆者の日記は語りかける～

8月6日（火）後9:05～9:55

広島原爆の日、8月6日の夜に、被爆者の残した日記を通して描くドキュメンタリードラマを届ける。18歳の時に被爆した青年が、放射線による症状に苦しみながら3年後に亡くなるまでの思いをつづった日記がある。この日記は原爆資料館に保管されほとんど公開されることはなかったが、福島での原発事故で多くの人が放射線の恐怖にさらされた現実を前に、青年の妹が動き始めた。「今こそ兄の苦しみを知らせるべき」と、この夏 重い口を開き証言活動を始めたのだ。

番組では、放射線の恐怖に苦しんだ青年の3年間を、日記の朗読をベースにドラマも交えて描く。語り始めた84歳になる妹の思いに寄り添いながら、被爆者治療に従事してきた医師の証言も加え、「人間は核とどう向き合えばいいのか」を改めて問いかける。

【出演者】風見しんご、緒川たまき ほか

板尾シネマ

8月11日（日）後10:10～前0:00（ニュース中断あり）

お笑い芸人としてだけでなく、俳優として、映画監督として、また執筆活動など総合クリエイターとして幅広く活躍している板尾創路。そんな板尾がここ数年温めていた「裏側から映画の魅力に迫る」ラジオ番組企画がこの夏ついに実現する。これを聞けば映画を見たくなり、映画を見てもう一度これを聞きたくなる、というラジオならではの映画特集番組である。

前半は「バックステージパス」と題して、監督や主演級の出演者以外のいわゆる裏方さんに映画製作の魅力やエピソードを語ってもらい、その映画の新たな魅力を探る。そして後半は「イタオスカー」と題して、板尾独自の視点で「主演でも助演でもない存在感俳優賞」や「決めゼリフ賞」などのユニークな賞を考案し、リスナーのアンケートや映画に詳しいゲストとのトークなどを通して、受賞作や受賞者を決め、最終的に「イタオスカー作品賞」を決定する。

FM

吉田秀和が語った世界のピアニスト

8月26日（月）～30日（金）前10:00～11:00

2012年5月に逝去した音楽評論の巨星、吉田秀和。死してなお、「私の好きな曲」「名曲三〇〇選」「モーツァルト」といった著作が版を重ね、ロングセラーとなっている。1971年から2012年まで、41年間にわたって放送したFM「名曲のためのしみ」は、吉田氏のライフワークとも言える番組。再放送の要望も多く、その中から吉田氏がとりわけ高い関心を抱いていたピアニストについてのお話を集め、5日連続で特集する。往年の巨匠や、現在第一線で活躍する名手の演奏を吉田氏はどのように表現したか。名解説と音楽を合わせてお送りする。

<予定ラインナップ>

①巨匠たちのベートーベン ②グールド、ブレンデルのハイドン ③シフのシューマン、ピリスのシューベルト ④ガヴリーロフとヒューイットのラヴェル ⑤リパッティ、ツィメルマンのショパン

<解説>吉田秀和（音楽評論家） <ご案内>西川彰一（NHKチーフプロデューサー）